

お米の異品種混入(コンタミ)防止チェックリスト 秋版

～ 収穫・乾燥調製・出荷作業時の コンタミ発生に気をつけましょう ～

お米の販売が品種銘柄中心となっていることやJAS法の施行などによって、産地から出荷する米穀は「表示銘柄以外の混入のない米穀」である必要があります。

秋の作業では、収穫・乾燥調製・出荷作業時に「品種の取り違え」がおきやすいため、特に気をつけましょう。

また、米穀調製貯蔵施設等への出荷・搬入作業時に品種を取り違えたため、大きな被害金額となった事故もありますので、関係者間でよく確認のうえ出荷・搬入するように気をつけましょう。



収穫期から出荷期までの注意のポイント

① 8月【収穫作業開始前の準備】

- 収穫前には、コンバイン・乾燥機・籾摺機・粒選別機などの保守点検と整備を必ず行い、掃除機やエアガンなどを用いて丁寧に清掃しましょう。
- 収穫作業を委託する場合は、ほ場別に立札などを設置して、品種名を明記しましょう。

② 9月【収穫作業】

- コンバインは、品種切替時に籾が残留しやすい部分（各搬送部の底面およびコーナー部）の清掃を徹底しましょう。（または、品種別にコンバインを専用とし、共同利用しましょう。）
- 籾の搬送機材（軽トラックを含む）は搬送1回ごとに清掃しましょう。



③ 9～10月【乾燥調製作業】

- 乾燥機の荷受ホッパーが床式の場合は、荷受口周辺に仕切板などを設けましょう。
 - 張込時に床に落ちた籾は、荷受ホッパーに掃き入れないで処分しましょう。
 - 乾燥作業の際、乾燥機には、品種名を表示しましょう。
 - 乾燥機は、乾燥前と品種切替時に、掃除機やエアガンなどで丁寧に清掃しましょう。特にバケットエレベーターの下部やスクリーンコンベアなどの搬送部分に籾が残留しやすいので注意しましょう。（または、品種別に乾燥機を専用とし、共同利用しましょう。）
 - 乾燥籾の一時貯留庫・仕上乾燥後の保管容器（籾蔵を含む）には品種名を表示しましょう。
 - 籾摺・粒選別機は、品種切替ごとに丁寧に清掃して、米粒が残留しないようにしましょう。
 - 米を包装資材に充填する際には、印刷されている品種名を確認しましょう。
- ※ 収穫・乾燥・粗選別・袋詰めなどの各作業において、品種の取り違えが多くなっていますので細心の注意を払いましょう。

④ 9～10月【出荷作業】

- 原料米（生籾・半乾籾・乾籾・粗玄米）の搬送容器（フレコン・コンテナなど）は出荷するたびに清掃しましょう。
- 搬送容器には、必要事項（ほ場No・品種名・氏名・乾燥調製月日など）を必ず記入しましょう。
- 包装容器の取り違い、票せんへの品種誤記入などは、その後の精米段階で他品種と混入する要因になるため十分に注意しましょう。
- 農産物検査時には包装容器に氏名・品種名を荷札・カード等により明記し、品種の取り違えを防止しましょう。

